

電とう 徳山の町に、電とうがついたのは今からおよそ五十年前の大正六年です。それまでは、あんどんや、ランプにたよっていた人たちは、いままでより明るくなった電とうのもので、生活ができるようになりました。ちかごろでは、けいこうとうも使われ、町の中心地には、ネオンや、水銀とうがかがやき、あちらこちらに、がいとうもつけられ、夜を明るくしています。

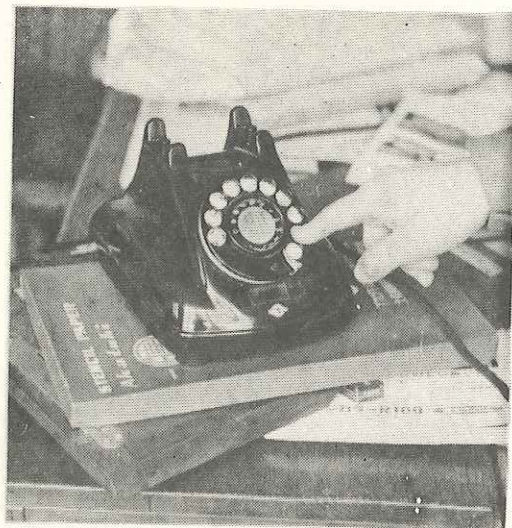
電話 電話は、明治四十二年一月につきました。

はじめのうちは、おもだった役所だけでしたが、昭和二十四年には、電話



夜の徳山

のある家は、八百九十一、ほかに、公しゅう電話が五か所、三十一年には、千七百六十五、公しゅう電話は、九か所にふえてきました。今では、電話は自動式にかわり、市内の電話は、ダイヤルをまわすだけで話ができるようになりました。山口県の内だけでなく、広島あたりとも、すぐに話ができるようになりました。



自動電話

自動式になった徳山市のでんわ		
(昭和38年2月24日現在)		
電報電話局調べ		
市内にかける時…ダイヤル即時		
(ダイヤルをまわすだけで話ができる)		
県内	下関	宇部など…ダイヤル即時
	熊毛	都濃など…手動即時
広島	海田	…ダイヤル即時
(30分 1時間も早くなりました)		
多くなった徳山市のでんわ		
(こうしゅうでんわ)		
36年	3409	(66)
37年	3591	(72)
38年	5191	(91)
39年	5576	(104)